

本授業の主張点

体育館への通路をわくわく楽しい場にしようと、透明な材料を使い、おもちゃをつかって展示します。仮展示の場で数名の6年生から他者評価をしてもらい、表現への自信と新たな意欲をもって、表現を修正したり新たにつくったりしようとする児童の姿を目指します。

1 題材名 ひかりのおともだち ~おもちゃのパレード~

2 題材の目標

体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料の形や色を生かして表すことを楽しむ。

3 評価規準【学力デザイン レベル1より】

- 体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料や色セロハンを用いて立体的につくることを楽しもうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- 透明な材料からいろいろな形をつくったり、色の見え方を試したりしながら、体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を思い付くことができる。 【発想や構想の能力】
- 透明な材料の形や色を工夫して、体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」をつくることができる。 【創造的な技能】
- 他者評価を聞いて思ったことを出し合い、「おもちゃ」の面白さや展示する場を楽しくするという造形的な活動のよさを感じることができる。 【鑑賞の能力】

4 題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、自分のつくりたいものや表したいものを進んで表すことができる。「透明な紙にかこう」では、透明フィルムにカラーペンや色セロハン等で自分の好きなものを表し、光に透かして見える面白さや美しさを感じ取ることができた。また、「夏が楽しみ！大作戦」では、夏が楽しみになるように、画用紙や色紙等で思い思いの夏を表して廊下を飾り、通る人に喜んでもらうことで自分たちの造形活動のよさに気付くことができた。

一方、活動中の振り返りにおいて、お互いの作品のよさや面白さを出し合ってきた。活動中に立ち止まって振り返ることで、思い通りに表せていると自信をもったり、次に表すことを考えたりする姿が見られた。「夏が楽しみ！大作戦」では、活動途中に1年生の先生からの他者評価を受けることで、自分たちの活動が認められ、さらに表現意欲をもって取り組むことができた。本題材では、思いを込めてつくったものが、見る人や場を楽しくしていると気付くことができるように、児童とは異なる見方・考え方ができる6年生に評価をってもらう。自己評価・分析や相互評価・分析と合わせて活動を見つめることで、自分たちの活動が有意義なものであることに気付き、今後さらに意欲と自信をもって造形活動へと取り組もうとすることを期待している。

(2) 題材の意義

本題材は、もうすぐ完成する新しい体育館への通路を、わくわく楽しい場にしたいという思いを込めて、透明な材料や色セロハンを主に用いて「おもちゃ」をつくり、展示するという造形的な活動である。ペットボトルやプラスチックの容器、ビニール袋など、児童の身近にある透明な材料を用いて、光の透過による面白さを味わったり形の組み合わせ方を考えたりすることで、発想を広げることができる。また、材料を切って形を変えたり、中に色セロハンやアルミホイル等を入れたりするなど、形や色にこだわって表すことができる題材である。

表現過程での仮展示の際、児童と同じく体育館を使用し、児童よりも多様な見方・考え方が期待できる6年生から他者評価をってもらう。これにより、自分たちだけでは感じ取ることができない造形活動や作品の価値に気付いたり、課題を受け入れたりすることができ、自分の表現に自信をもち、さらに思いを込めて表現を修正したり新たにつくったりすることができる。また、題材終末の鑑賞段階での他者評価では、再度6年生からの見方・考え方で価値付けてもらう。これにより、仮展示からの表現の変容を感じ取り、体育館への通路を楽しい場にしたいという思いを込め

た「おもちゃ」を表現できたという達成感をもつとともに、自らの造形的な活動のよさを実感することができることを期待する。

また、目的をもって、いろいろな材料を試しながら思い付いたり、形や色を工夫してつくりあげたりすることで身に付けた力は、これからの造形活動の重要な基礎となると考える。

(3) 指導上の留意点（視点の具体化の側面から）

本視点では、児童自身が学びの高まりを実感することができるように、目的をもって社会に発信する表現活動を仕組み、その過程において、児童にとって身近な他者からの評価を取り入れる。そこで、価値付けされたり課題を示唆されたりした表現を、教師や友達とともに振り返る。以下、その関連場面を示す。

《感じる／見つめる／想う段階》

もうすぐ完成する体育館への期待やわくわく感をもっと高めるには何ができるか考えるために、体育館への通路に行き、その場の雰囲気を感じ取る。作品を展示することでその場が明るくなることを想起するために、「学びのアルバム」を振り返るように促す。体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」をつくらせて通路に展示することに興味をもつことができるように、体育館をおもちゃ工場に見立てて、おもちゃが通路に飛び出してきたというお話を紹介する。そして、材料の特徴を生かしてつくることができるように、ペットボトルや透明パック、ビニール袋などの透明な材料を使った材料体験の場を設定する。そうして感じたことをイメージマップに書き出し、そこから表したいもの考えるように促す。

《表す段階》

「おもちゃ」の表現過程を写真に撮り、「学びのアルバム」に蓄積し、自己評価・分析を行うことで、自分がどんなことを考えて活動してきたのかをたどれるようにする。

表現の途中で、自分がつくったものがどのような感じになるか確かめるために、仮展示を行う。そして、体育館の完成が楽しみだという共通の思いをもち、1年生よりも多様な見方・考え方が期待できる6年生に他者評価をしてもらおう場を設定し、仮展示の作品の価値付けと課題の示唆をもらう。その際、展示する空間である体育館への通路を意識して表現できるような観点を与えてもらうように、事前に打ち合わせをしておく。また、他者評価の内容からキーワードを短冊にまとめて掲示することで、自分たちの表現のよさを再認識し、自信と意欲をもって新たに表そうとしたり、課題を意識して表現の変更や修正に取り組んだりすることができるようにする。その後、友達同士での相互評価・分析を行い、作品に込めた思いや表現の工夫などが表れているかを思考・判断しながら表していくように助言する。

《鑑賞する段階》

完成した「おもちゃ」を新しい体育館への通路に展示し、再度6年生に評価をもらう場を設定する。その際、表現の効果〔見る人やその場に与える効果・表現の変容（修正・進化）・「おもちゃ」に込めた思い〕を具体的に示してもらうよう、事前に打ち合わせをしておく。その後、仮展示での他者評価と比較しながら、新たに生まれたり進化したりした自分の思いや表現の変容を感じ取ることができるように、「学びのアルバム」を活用するように促す。そして、目的に向かってつくりあげることができた達成感をもって学びの高まりを実感できるように、友達と話したり聞いたりする鑑賞の時間を設ける。

5 指導計画（全7時間）

段階	時	主な学習活動（太枠 <input type="checkbox"/> : 視点）	指導上の留意点（○） 重視する評価規準（◆）	評価
感じる ／ 見つめる ／ 想う	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ もうすぐ完成する新しい体育館への通路に行き、その場を楽しくする方法を考える。 ○ 通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料でつくり、展示することを知り、材料体験をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・なんだか面白そうだな。 ・ペットボトルは、軽くて面白いな。 ・キラキラ輝く「おもちゃ」をつくるぞ。 ・重ねても透けて見えるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの題材から、自分たちの作品で場を明るく面白くできたことを想起することができるように、「学びのアルバム」を見ながら振り返るように促す。 ○ 透明な材料の特徴を感じ取ったり、どんなことができるのか考えたりできるように、材料体験をする時間を充分にとる。 ◆ 体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料を使ってつくすることに、興味をもって取り組もうとしている。 	関

	2	<p>○ 材料体験から思い付いたことをイメージマップに書き、つくりたい「おもちゃ」を考える。</p> <p>【「学びのアルバム」活用】 イメージマップを基に、テーマを伝え合い、思い付いた表したいものを記録する。</p>	<p>○ 材料体験を通して、思い付いたことや気付いたことを言葉にしてイメージマップに書き出す場を設ける。</p> <p>○ 「学びのアルバム」等を活用しながらどんな「おもちゃ」が表現できるかを考えるように促す。</p> <p>◆ 透明な材料の形や色、特徴を生かして、つくりたい「おもちゃ」を思い付いている。</p>	発
表 す	3 4	<p>○ 形や色、材料の組み合わせ方等を試しながら、体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」をつくる。</p> <p>○ 仮展示をし、場の感じや感じ取った表現のよさを「学びのアルバム」に記録する。</p> <p>【自己評価・分析】 造形的なよさ（表現の工夫、通る人や場への効果、楽しい場にしたいたいという思いの表れ方）を感じ取る。</p>	<p>○ 形や色の組み合わせを試しながらつくるように促す。</p> <p>○ 着脱や試行錯誤ができるように、材料の接着には主にセロテープを用いるように助言する。状況に応じて、プラスチック用ボンドを用意し、児童と一緒に用いる。</p> <p>◆ 透明な材料の形や色を工夫して、体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」をつくることのできる。</p> <p>○ 仮展示を鑑賞して自己評価・分析する観点として、自分の作品の造形的なよさ（表現の工夫、通る人や場への効果、楽しい場にしたいたいという思いの表れ方）を示す。</p>	技
	5 (本時)	<p>○ 仮展示した場や通る人への効果、作品の工夫について、6年生から他者評価を聞き、表現の価値と課題を知る。*他者評価①</p> <p>【他者評価①を通した鑑賞交流】 ・透明で楽しい「おもちゃ」がたくさんで、楽しいと感じてもらえたぞ。 ・輝いて見えるように色セロハンをうまく使えたな。 ・いっぱい飛び出す形にしたから、楽しい感じになったな。 ・吊して展示するともっと楽しそうぞ。</p> <p>○ 表現を修正したり、新たに工夫したりすることを決め、「学びのアルバム」に記入し、「おもちゃ」をつくる。</p>	<p>○ 体育館の完成が楽しみだという共通の思いをもち、1年生よりも多様な見方・考え方が期待できる6年生に他者評価をしてもらう場を設定する。「おもちゃ」への思いをくみ取った上で、仮展示の作品の価値付けと課題の示唆をしてもらう。</p> <p>〔・通る人や場に与える効果はどうか。 ・作品からどんなことを感じるか。 (形や色の工夫、思いの表れ方)〕</p> <p>○ 自分たちの表現のよさを再認識し、自信と意欲をもって新たに表そうとしたり、課題を意識して表現の変更や修正に取り組んだりすることができるように、他者評価の内容からキーワードを短冊にまとめて掲示する。</p> <p>○ 友達同士での相互評価・分析を行い、作品に込めた思いや表現の面白さなどが表れているかを思考・判断しながら表していくように助言する。</p> <p>◆ 他者評価①を生かして、透明な材料の形や色を工夫して、体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」をつくることのできる。</p>	
鑑賞する	7	<p>○ 完成した「おもちゃ」を、体育館への通路に、表現の効果が表れるように展示する。</p> <p>○ 6年生に展示した通路や作品を見せ、仮展示の作品との比較を通して他者評価をしてもらう。</p> <p>*他者評価②</p> <p>【他者評価②を通した鑑賞交流】 評価してもらったことを聞き、自分が感じ取ったよさを出し合う。</p> <p>○ 「学びのアルバム」を見ながら題材を振り返り、評価と表現の変容をたどる。また、表現の工夫やそのよさについて、自己評価・分析を行う。</p>	<p>○ 体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」のよさが、より伝わる展示の仕方を考えるように促す。</p> <p>○ 仮展示の表現との比較を通した他者評価②により、他者評価①と比べた表現の効果や修正・進化などの変容を6年生に話してもらう。</p> <p>○ 学びの高まりを実感できるように、これまでの活動について自己評価・分析を行い、体育館への通路を楽しくすることができたという造形的なよさを、友達と話したり聞いたりする鑑賞の時間を設ける。また、自己評価・分析や相互評価・分析で感じ取った造形的なよさを、他者評価②で評価されたことと関連させて教師が価値付けを行う。</p> <p>◆ 展示した作品を楽しく見たり、他者評価を聞いて思ったことを話したりして、「おもちゃ」の面白さや展示する場を楽しくするという造形的な活動のよさを感じることができる。</p>	鑑

6 本時の指導（本時 5 / 7）

(1) 目標

体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料の形や色を工夫してつくることができる。【創造的な技能】

(2) 展開

太枠：視点

学 習 活 動	教師の働きかけ（○） 形成的評価（◆）
<p>1 体育館への通路に仮展示した「おもちゃ」の感想を話したり聞いたりして前時までを振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 自分たちの表現のよさ（形や色の工夫、通る人や場への効果、楽しい場にしたいという思いの表れ方）を想起できるように、「学びのアルバム」を用いて自己評価・分析を振り返るとともに、仮展示した作品についての学級全体での評価を整理して伝える。</p>
<p>たいいくかんへのつうろをたのしくする「おもちゃ」を、かたちやいろをくふうしてつくろう。</p>	
<p>2 仮展示をした作品から感じられる表現のよさや課題を、6年生から他者評価をもらい、自分たちの表現のよさを見つけ、課題を示唆してもらおう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《期待する児童の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい「おもちゃ」がいっぱいできて、体育館への通路がもっとわくわくすると言われたぞ。やったね。 ・ドラゴンのはねが大きく広がって楽しいと思われたぞ。工夫が伝わって嬉しいな。 ・展示する場所がいろいろありそうぞ。吊して展示したいから、下から見ながらつくってみよう。 </div>	<p>○ 形と色に着目できるように、カードで掲示する。</p> <p>○ 6年生からの他者評価を聞く場を設定する。その際、次の観点で評価をしてもらうように伝えておく。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin: 5px 0;"> <p>〔・通る人や場に与える効果はどうか。 ・作品からどんなことを感じるか。〕</p> <p>（形や色、組み合わせの工夫、思いの表れ方）</p> </div> <p>○ 1年生の活動や作品のよさを認めた上で、「もっと色ゼロハンを入れるといいよ」「上から吊すと揺れてもっと楽しくなるよ」というような言い方で課題を示唆するよう6年生に伝えておく。</p> <p>○ 活動への意欲と見通しをもつことができるように、他者評価を受けて、楽しくするという思いや、形、色等について感じたことを「学びのアルバム」に記述する時間を設ける。その後、プラス評価の観点を短冊に書き、自分たちの評価と照らし合わせることで価値付けを行う。課題が示唆された観点についても短冊に書いて共有し、さらによいものにするにはどうすればよいか話し合う場を設ける。</p>
<p>3 表現を修正したり、新たにつくったりする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《期待する児童の意識》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館への通路に飾る場所を考えながらつくろう。 ・形ばかりつくっていたから、色も楽しくなるようにしよう。 ・明るい色が多くて楽しくできたぞ。こんどは太陽みたいな形をたくさんつくって、もっと楽しくしているようにしよう。 ・ペットボトルだけ使っていたけど、他の材料を組み合わせても面白いな。この形がいいかな。いろいろ試してみよう。 ・透明だから、重なっても面白いな。気付かなかったよ。もっといろいろつくって楽しくしたいな。 </div>	<p>○ 体育館への通路を楽しくするという目的を意識してつくることができるように、児童の思いやイメージを聞いて活動を認めながら、声かけを行う。</p> <p>◆ 体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料の形や色を工夫してつくることができているか。</p> <p>【観察・対話・作品】</p> <p>A 体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料の形と色の両方にこだわって表そうとしている。</p> <p>B 体育館への通路を楽しくする「おもちゃ」を、透明な材料の形または色にこだわって表そうとしている。</p> <p>→ 残りの観点について、思いに合わせた工夫が何かできないか声をかける。</p> <p>C 通路を楽しくしたいという思いがもてていない。または、表し方が分からず、活動が停滞している。</p> <p>→ 「学びのアルバム」を用いて、イメージマップの言葉から生かせそうなことを尋ねて、それを表してみるように促す。</p> <p>→ 工夫できそうな観点到気付くように、一緒に材料を動かしながらどんなことができそうか声をかける。</p>
<p>4 本時の振り返りを行う。</p> <p>(1) 本時でつくった「おもちゃ」の工夫やよさについて、再度、6年生から話を聞く。</p> <p>(2) 思ったことや工夫したことを「学びのアルバム」に書き、全体で振り返りを行う。</p>	<p>○ 6年生から作品の変容について他者評価を聞く場を設ける。</p> <p>○ 6年生からの他者評価を受けて思ったことや本時で工夫したこと等を「学びのアルバム」に書くよう促す。</p> <p>○ 自らの表現のよさを実感している記述を取り上げて価値付けを行う。</p>

